１２月某日、日曜日＋コロナ禍で人口密度激薄の電車を乗り継いで一人旅へ。
行く先は vore cafe なるお店。
此処では、シャチフロートとエアーポンプによる疑似的な被食体験、丸呑まれ体験ができるらしい。
私はゲームや小説、漫画での体内描写という物が好きで、某小説掲示板での創作でもファンタジーだと体内描写入れたい症候群だった、けれど、資料映像なんて医療教材の内視鏡撮影の映像位なのですよ。体験ではない……。
ほむー。となっていたところにそんな所のお話を聞いてしまったのです。行くしかないでしょう。
まずは予約を済ませる。完全予約制らしい……。

場所は神奈川県の下溝なる所。下溝駅にスタッフさんが迎えに来てくれるらしい。
最寄駅からかなりの乗り継ぎを経て到着。大体２時間くらい。
そして下溝駅ですが、無人駅且つ単線且つ駅設備以外の設備がトイレしかないっ。
近くにコンビニも無いっ。なんか食べ物屋さんはあった。でもこの日は食べられに来ているので無視。

しばらくすると店長さんのぶいさんが迎えに来てくれました。
「Gamygyn さんですね」
「あっ、はい」
「こちらです」
「あっ、はい」
そうやって私がコミュ障を爆発させていると、
「Gamygyn さん、最近はどんなのに丸呑みされてます。好きな怪物とかいます？」
おおう……。相手が vore フェチとはいえ初対面の人間に物凄い質問をしてくる……。流石ぶいさん……。
「あ、あっ。最近はヘビっぽい、鰻っぽいのがいいですねー。ポケモンのミロカロスとか好きです」
「あー、あれ、いいですねー」
そんな感じで歩くことしばらく。お店に到着っ。

お店に入ると入り口にはイラストコーナーが。そして、奥にはいろいろな設備。そして上がり込んで横を向くとそこには……。

どーん。

と、噂のシャチフロートが横たわっているではありませんかっ。
「こ、これが噂の……」
と感動しつつ、事前説明。
とりあえずこんなプランで。

ベーシック Lv1
白濁胃粘液
加湿器
電気毛布(途中オフ)
音声
ゴーグル
バスタオル
温風ポンプ(途中追加)

そして前金お支払いののち、シャワールームで身体を洗う。ここで温かめのシャワーで身体を少し温る。

シャワーを終えて出ると、いよいよ食べられる……直前の説明。
「これが音声のイヤホンで、これがゴーグルですね」
「は、はい」

「このホースが加湿器で、こっちのホースが空気流入ですね。これ塞がったりすると、消化されるかもしれないので気を付けてください」
「は、はい」
「苦しかったり暑かったりしたら大声で呼んでください」
「あ、はい」
そして、シャチフロートへ。手すりをつかんでゆっくり足を入れる。
と、肉壁が足に吸い付いてくる感じがあり、しかも底が分からない。これが、体内……。
「あっ。あっ」
思わず情けない声が出てしまう……。
そのまま、シャチフロートへ身体を滑り込ませると、全身がぬるぬるの粘液に包まれてしまう。しかも仰向けに入ると、両手の中に粘液が滑り込んできて、これを握るとにゅるっと逃げていく……。そして掌から粘液が垂れていくような感覚。これがもう凄い。痛みは無いまま、異常な感覚に酔わされて身体が溶けていくような感じ……。
「では、閉めますよ……」
「ああっ、はいっ」
そ、そうだ、まだ私は胃の中に堕ちたわけじゃない……。それなのにもう、被食者モードの思考回路になっていた。
そして、チャックが閉められて辺りは完全に真っ暗。顔の横も上も粘液塗れで、しかも急に肉壁が迫ってきて締め付けられて、それから解放。と、思ったらまた締め付け……。最近開発された蠕動運動再現装置のお陰で、呑まれた獲物が臓器の中で熟されるのを体験できる……。
最初は締め付けられる度に変な声出てました。「あっ」とか「はあっ」とか。それだけ、興奮してました。
柔らかい空間で粘液に全身包まれてるってだけでもう頭おかしくなりそうでした。人生においてそんな経験勿論ないわけで、到底現実とは思えない感覚。そして身体を反転……。顔が早くも胃粘液塗れ。鼻や口に粘液が責めてくる。鼻や口が粘液でふさがれると、まるで顔が溶けるような感覚……。実際溶けてるわけじゃないですけれど、なぜか顔についた粘液を手で拭おうとして、でも、手も粘液塗れだから拭えない。生存本能が働いてパニックになっているのに、楽しんでいる。序盤はそんな感じでした。
ある程度落ち着きを取り戻してくると、vore 音声もあり割とシチュエーションを想像できるようになり、そうなると今度は妄想が楽しくてたまらない。妄想しながら身体を反転させてさらに粘液塗れになっていく。そして脳内では楽しい妄想……。こうしている間にお腹周りや両腿がねっとりしてきて、表皮が溶けているような感覚に。ああ、どんどん溶けていく……。勿論溶けてないんですけれどっ。
ただ、ここで時期的なせいか、上半分が冷たいのが気になる。なので、温風ポンプ追加。これで完全に温まり、愈々体内感が増す。捕食者の体温と、蠕動の圧迫と、粘液による責め…

…(本当に食べられているならここに胃酸による消化と、悪臭も加わるのだけれど、それだと今こうしてレビュー出来てないのですが)。この辺りで私の身体は疲れてしまってるけれど、メンタル面はまだまだハイという不思議な状態に。胃の中って気持ちよくて癒されてるのか、圧迫されて身体を無理くり動かされて、粘液で口を塞がれて苦しいのかわからないとこうなるんだろうな……。
が、流石に温風ポンプ＋電気毛布で暑すぎてしまったので電気毛布を消してもらう。
それでゆったり消化されていると、温風ポンプのみなのにちょっとのぼせてしまった模様……。火照ったからだが蠕動で揺らされて本当に気持ちいい。そのまま、私は消化された心算で眠りへ……。
が、ここでまさかの呼吸用エアポンプの冷風が顔に当たって気持ちいい……。そこで思わず呼吸用ポンプのホースをつかむと、*そこで蠕動が始まり腕を強烈に締め付けられて、まるで冷風ポンプが逃げていく。体内で希望を取り上げられた絶望感に、**なぜかテンション爆上がりの私。**ああ、私は本当に胃の中で酸素も奪われて体力も奪われて嬲られ続けて……、**最高**……。*そんな危ない妄想をしつつ、身体は疲れとのぼせでボロボロなのにハイなテンションのまま、もぞもぞと怪しい動きを始める私。身体をまた回転させて、そう思ったら戻して、粘液に溺れてみて、また戻して。そうしているうちに時間が終わってしまいました……。

シャチフロートから這い出る私、何とか立ち上がりシャワールームへ。
身体についた粘液を洗い流し、着替えを済ませる。その間もずっと頭の中がボーっとした感じ。まるで思考回路が溶けてしまったよう……。
更衣室から出て、後金を清算。そのまま退店。

　疑似的とはいえ丸呑みされて、胃袋に収められて溜め置かれた非日常体験を思い返し、それと、旅行の終わり、現実への帰還の虚しさを感じながら電車に揺られる私。

帰宅後、手洗いうがいの後、胃の中の事を反芻しながら眠りに落ちてしまいました……。

コロナ禍が落ち着いたら、もう一度行きたい。そう思えるスポットでした。
今度は、つぶつぶゼリーとかもつけてみたい。

―零れ話―
実は水着を履いて呑まれたのですが、出る頃には水着は完全に終了していました。いくら洗っても搾ってもぬめぬめは落ちず……。
リアルさを求めるなら、温風ポンプ or 電気毛布と vore 音声は必須。ただ、温風＋電気毛布は完全にのぼせるのでハードな被食体験を求める方でなければ加温は片方で十分。
小さな声で自己暗示をかけるとよりいいです。「あっ」とか「ふわっ」とかは出ちゃうと思

います(笑)